
ちせの街

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちせの街

【Nコード】

N1348A

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

シュウジのストーリー。

僕は罪をおかした…

最愛の人を裏切ってしまった…

僕はその最愛の人の最後の願いをかなえるため街に戻った。

その途中最近まで隣で寄り添って歩いていた彼女はもう人とは違う別のものになっていた…

全ての生き残った人々から…

そして僕もそう思いかけてしまった…

ある学者に助けられ、その人の一言で再び彼女を…ちせを近く感じられた。

僕は今僕と彼女の生まれた街にいる

たまにちせを思い出す。

厳し過ぎる現実で少しずつ薄れていく記憶…

二人で過ごした日々だけは忘れない、忘れたくない

サトミ「シュウ先輩！」

シュウジ「ん…あ、なんだ？」

サトミ「何だじゃないですよ！話の途中で黙りこんじゃって」

シュウジ「すまん…何話してたんだけ？」

サトミ「しっかりしてくださいよ！今までどこ行ってたんですか？」

ああ…そうかこれで、この問い掛けで久しぶりにちせを思い出せたんだ

シュウジ「今までか…違う街に行ってた」

話すつもりはないのに…もっとちせを思い出せる気がしてつい話してしまった

サトミ「街？まだこの街以外にも人いるんだ…」

シュウジ「もう…いないんだ」

サトミ「…！先輩は一人で行ったんですか？」

サトミも結構図々しい…アケミそっくりだ

シュウジ「わりい…これ以上話すと俺泣きそうだから…」

サトミ「…すみませんありがとうございました。」

シュウジ「おう！それじゃまた明日な」

サトミ「はい！」

ちせを思い出せた…告白された時のこと、はじめてキスした時のこと、フラれたこと、駆け落ちした日々を…

ちせは今どーしているのだろうか？兵器としてこの世界いることだけはわかる、ちせは今もちせなのだろうか？僕は一目でちせをちせだとわかるのだろうか？

そんなことを考えているうちに寝てしまった…

夢の中でちせの声が聞こえた…

ちせとの約束を思い出した…

日の出とともに目が覚めた

「…行こう」

いるかも分からないちせに会ったため約束の地へ向かった…

- E N D -

（後書き）

シュウジの想いをひたすら考え書きました

展望台に行くまでシュウジはしばらく街で暮らしていたとおもったのでその間シュウジはどんなことを思いちせに会いに行ったか自分なりにまとめました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1348a/>

ちせの街

2010年10月10日20時08分発行